

すなおに学び ひたむきに鍛え ころ豊かな三中生



東村山三中だより

令和2年12月2日号

東村山市立東村山第三中学校 統括校長 太田 元

Higashimurayama Daisan J.H.School

30才の自分はどのように社会で生きているか



今年度は例年より早く、既に3年生の進路決定に向けての面接練習が始まっています。それぞれ時間にすると、20分程度の短い時間ですが、校長、副校長、主幹教諭による個別の面接練習は、3年生にとってとても緊張する場面であると思います。毎年、真剣勝負の気持ちで臨んでいる3年生に接すると、私自身も改めて背筋の伸びるような気持ちになり、緊張します。しかし、実はこの時間は私にとってとても楽しみな時間でもあります。なぜなら面接をしてみると、生徒一人一人の成長を感じることができるからです。これは教員という職にあるものにとって何にもかえがたいうれしいことです。

三中生の姿を追うと、目の前の目標に向かって必死に頑張っている姿があります。3年生だけでなく1年生も2年生も三中生は皆今やるべきことを知っています。そして、その「今やるべきこと」に向かっていきます。多くの生徒は着実に一步一步前に進んでいます。しかし、やるべきことそのものや、進む速さ、その方向は人によって様々です。私もそうですが、人はとかく周りの人のことが気になります。ですから、人と比べてしまい、「自分がやっていることは本当に正しいのだろうか」とか、「本当に成果を生むのだろうか」とか迷います。自分が自分自身を見つめると、迷ったり自信がなくなったりする時があります。自分一人でどうにかしなければと葛藤もします。人は、少しでもよい生活やよい人生を送るため、自分自身で頑張らなければ…と考えるので、それは当然のことです。しかしそのような時は、少し離れたところから、改めて自分を見つめてみることも大切なことだと思います。そうすると自分の周りに自分の味方でいてくれる人や、直接手を貸さないまでも静かに見守ってくれている人がいることに気付くはずですが、そういう存在に気付くことができても頑張るのは自分であることには変わりはありませんが、一人で走るより応援の声や思いを背に受けて走るほうが着実に前へ進めるような気がするのです。

また、目の前の「やるべきこと」に一生懸命になって、悩んだり迷ったりしたときは、「30才の自分はどのように社会で生きているだろう」と考えてみてはどうでしょうか。つまり、30才の時、自分はどうありたいかを考えるのです。中学校卒業直後のことを考えると、それはあまりに現実的すぎて、どうしてよいかわからないことも、30才の自分を考えるとそこに至る道筋はいろいろあるでしょうし、時間もたっぷりあるでしょう。そして成功も失敗もいろいろと経験するでしょう。私自身のことを振り返ってみると、成功したことよりも失敗したことの方がたくさんあったような気がします。そして私の30才の頃は…というと、中学生の時に思っていたようにはなっていませんでしたが、失敗を積み重ねながらも今思うと幸せであったと思うのです。では、今の私は…というと、生徒をはじめ多くの方々のお陰で校長として、そして家族のお陰で夫として父親としてとても幸せです。

30才の自分はどのように社会で生きているか…三中生の皆さんはどうでしょうか。私は学校で学ぶこと全てが、「生徒一人一人が、自らの思いや願いを実現するために大切なこと」であると思っています。授業を中心に各教科等の内容を学習することも、今年度はコロナ禍により実施できない行事も多くありますが、その中でも実施できる行事等に一生懸

命取り組むことも、そして毎日友達や先生に囲まれて生活することも全てそうです。勿論、一人で取り組み、何かを得ることもあります。しかし、人は一人では生きていけません。中学校生活においても、自分ではない誰かのために尽くしたり、誰かの力を借りたりして、人との関わりの中で自らの充実感や達成感を感じる機会を得ることはとても大切なことだと思うのです。この中学校生活を土台に、「今の自分はどうか」だけでなく、「少し先の自分に期待」もしながら、「皆さんにとって大切な今」を生きてほしいと思います。



「今月の花」

山茶花(さざんか)

- ・北校舎前の左側に咲いています。
- ・童謡「たき火」で唄われている冬を代表する花です。
- ・白、ピンク、しほりなどの色もあります。



「平和、人権、いのち」について学ぶ

東村山第三中学校では、三年間を通して、総合的な学習の時間や道徳を中心に、様々な場面で「平和、人権、いのち」について学びます。その三年間の積み重ねの上で、3年生時に修学旅行で広島を訪れ、学習したことやそれを通して感じたこと、考えたことを確認したり実感したりする機会としています。また、2年生時の校外学習でも、ただ都内の観光地を巡るのではなく、東京大空襲をはじめ戦争について取材をし、人に触れ、お話を聞くことを通して「平和、人権、いのち」について考える学習をしています。残念ながら、今年度はコロナ禍により修学旅行や校外学習等が中止となりましたが、三中では行事の本来の目的を見失わず、生徒と教職員と一緒に、これらの行事に代わる取組を進めています。行事が中止となることはとても残念なことです。三中では学びを止めることはしません。本来、修学旅行が実施されるはずであった9月17日に、修学旅行実行委員会を中心に3年生が実施した「平和のつどい」は、まさにコロナに負けない三中生の学ぶ姿勢を示してくれたものだと、私自身、三中の校長として自慢に思っています。また、2年生も校外学習が中止となりましたが、外に出ていけないのならば、校内でできることは何かないかと考え、外部から講師を招き講演会を実施したり、外部から資料を取り寄せ、三中の集会室で展示し見学をしたりと、校内で貴重な体験を積み重ねています。1年生も2・3年生時での学習を見据え、人権についての講演会を実施したりしています。

私たちはどの人も、他の人とともに「幸せ」な人生を送ることを求めていかなければなりません。そのために、中学生の三年間、たくさんの「幸せの種」を皆さん自身の「こころ」に蒔(ま)いてほしいと思います。種を蒔き、これから水や栄養を与えて、いつか芽が出て花が咲き、実がなることを期待したいと思います。

最近の話題

ストレスマネジメント講座(11/24 3年生)

3年生はこれから進路決定に向けてますます忙しい毎日となりますが、そのような時期に少しでも前向きに自分らしさを発揮できるようにするために、本校スクールカウンセラーの田中飛鳥先生によるストレスマネジメントを学ぶ授業を実施しました。

